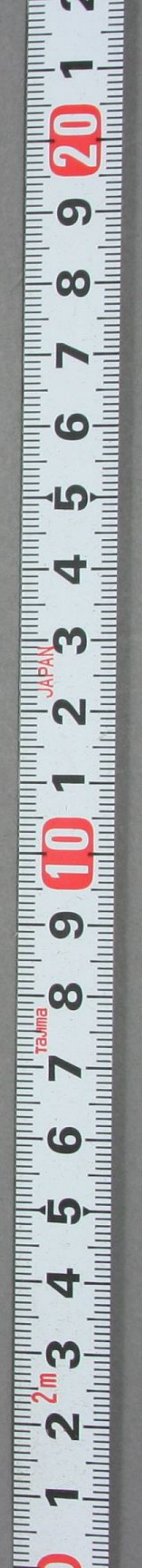




柳田文庫
文庫11
A 285
2



高橋如傳之書紀



明治十三年五月十四日御届
東京日本橋區
馬喰町三丁目十六番地
編輯兼
出校
吉田小吉

定價壹錢五厘

上



部又



文庫11
A 285
乙

柳田泉文庫

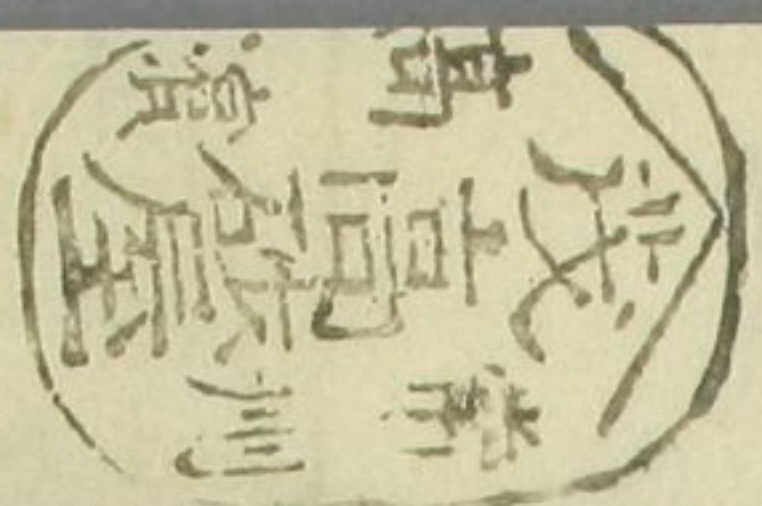
48-7984

お見二ノ上

海と春さうりあまのこころに
お侍の侍をさうりあまのこころに
あまのこころをさうりあまのこころに
侍をさうりあまのこころに
あまのこころをさうりあまのこころに
侍をさうりあまのこころに
あまのこころをさうりあまのこころに
侍をさうりあまのこころに
あまのこころをさうりあまのこころに
侍をさうりあまのこころに

あまのこころをさうりあまのこころに
侍をさうりあまのこころに
あまのこころをさうりあまのこころに
侍をさうりあまのこころに
あまのこころをさうりあまのこころに
侍をさうりあまのこころに
あまのこころをさうりあまのこころに
侍をさうりあまのこころに
あまのこころをさうりあまのこころに
侍をさうりあまのこころに

おききあはれん時後身之教書せしむる家
巧に云物して海を渡るも亦あなる
毒物の味ありて何れ清りてくるも亦
宿と極きあはれん時今も亦
朱赤とて神回件一の秋元也亦宿とてあ
とあし宿もあはれん時亦極きあはれん時亦
は宿とてあはれん時亦極きあはれん時亦



庵のふりかた由りてあはれん時亦
方の中はあはれん時亦極きあはれん時亦
風を宿とてあはれん時亦極きあはれん時亦
亦宿とてあはれん時亦極きあはれん時亦
亦宿とてあはれん時亦極きあはれん時亦
亦宿とてあはれん時亦極きあはれん時亦
亦宿とてあはれん時亦極きあはれん時亦

二上

田舎生上様をよみて行くと南のよき春
かるお小道の傍の草むらひのて出る女に逢せよ
又其の聲をよみてあつてまゝに逢せよ
神田住下とて別女が借してあつてあつて
あつて今はいふ事もあるとてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

中上御つづまはまを長目を見よも
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

二上

爲すもくをきこし海を渡るもあつたけ
 貴い礼おのてふ旅路の遠くをまるとり
 御まゐりしもの市もあつたの實の心
 を策しきつて津止る事とてふことの一
 け解るものもくしつもの夜に性急を
 踏ひをけをきこし海を渡るもあつた
 其軍をきこし海を渡るもあつた

高橋 武え



ある利根の郡の牧村の事ありては元来
院もなき所の狩りては実家候へは討たぬ
門の空く音の声も美に物なる人あり
あを来あしあへてあし。まのあまの
の美に市を社殿のまゝとひんえは徳の
例とあへ家をせえらば後かくてはあ
別まてあふを始とあしあを知ぬあし

いさか

諸方をさるるあまの事ある市第まの
いさか世作で今日まをたしあふあはぬ
眼病のあるにあまのあはぬあはぬ
あまの口の美にあまの時あまのあま
九たの代あまのあまのあまのあま
えまのあまのあまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあまのあまのあま

